

令和２年度第１回 秋田県地域訓練協議会 議事概要

日時：令和２年11月12日（木）
14:00～15:30

- 1 開会・秋田労働局長挨拶
- 2 委員紹介
- 3 会長選出
- 4 議題
 - （１） 公的職業訓練の概要について
 - （２） 公的職業訓練の実施状況と課題について
 - （３） 令和３年度における職業訓練計画の方向性について
 - （４） 意見交換
- 5 閉会

【議事概要】

- <議題（１） 公的職業訓練の概要について>
- <議題（２） 公的職業訓練の実施状況と課題について>
- <議題（３） 令和３年度における秋田県職業訓練計画策定の方向性について>

３つの議題を一括して、事務局から資料に基づき説明。（４）意見交換時に委員から意見等を求めた。

<議題（４） 意見交換>

●渡部会長（公立大学法人秋田県立大学）

コロナ失業ということが言われているが、把握しているようであれば、どのような業種離職者が多いのか、このコロナ失業により離職された方に対してうまく訓練を結びつけたような事例があれば紹介願いたい。

○事務局（訓練室長 佐藤）

どのような業種の離職者が多いかというデータや好事例的なものは現時点では把握していないので、各ハローワークの窓口において把握したコロナ関連離職者の受講あっせんに関するものについては情報収集を行い、事例として紹介していきたい。

●浅野委員（秋田県商工会議所連合会）

県や市でＩＴ系の企業誘致が進んでいるが、一方でなかなか地元の人材がおらず困っているような話を聞く。専門学校などの会議に出席するとコースを増やしてくれないかとい

う声に対してなかなか対応できないという話も聞こえている。今後、職業訓練においてはＩＴ系の人材を増やす訓練計画はあるのか。

○事務局

ＩＴ関係においては技術を活用できる人材の育成が急務。多様化する働き方等の時代ニーズに応じたスキルアップやキャリアチェンジに対応した訓練の拡充、特にキャリアチェンジという部分において、新たな人材を確保することが厳しい中で、今雇用している人材の中で技術系の知識を在職者訓練等で身につけてもらい、活躍してもらうリスキリングというものも必要となってくる。ワーキングチームでも機構、県との間でコース設定の議論を行うことになるが、その中で意見を踏まえて検討していきたい。

●渡部会長

それぞれ（委託・支援）の訓練の実施状況を見るとＩＴ系の充足率が高いが、就職率が低いという結果が見られる。専門学校や企業に訪問や電話などにより、どのような訓練ニーズ、人材ニーズがあるのか調査すべきではないか。

●佐藤委員（秋田県中小企業団体中央会）

会員企業の中には介護系の事業所もあるが、やはり人出不足である。介護系の訓練が、開講しても受講者が少ない、いないというのは訓練カリキュラムに問題があるのか、介護職場そのものに魅力がないのか検証しないと立派なカリキュラムを作ってもそれで得られる仕事が少ないと誰も訓練に向かわないことになるので、労働局だけでなく大きな問題になるのだから真剣に検証してもらいたい。

また、ＩＴ系の訓練についても企業が求めているのはＳＥまではいかないまでも高度なＩＴ技術をもつ人材なのか、パソコンを打てるだけの人材なのか、その線引きが難しいのでは。労働局ではどこまで人材を育成し、学校ではどこまで担うのか住み分けをしっかりとやっていかないと介護やＩＴの人材確保うまくいかないのでは。

●渡部会長

高齢・障害・求職者支援機構に協力いただき、雇用管理や在職者の支援を含めて検討いただきたい。

●脇委員（秋田県経営者協会）

論点はずれるかもしれないが、外国人労働者向けの訓練の体制などは秋田では行っているのか、今後、そのような訓練等を実施することは検討しているのか、教えてもらいたい。

○事務局

技能実習生など在留資格により左右されることはあるが、日本人の配偶者等、その他、雇用保険の受給資格を有し、退職した者については、受講資格を満たせば受講あっせんの対象となるほか、在職者訓練なども要件を満たせば対象となる。

●浅野委員

関連して聞きたいが、特定技能資格を得たい場合に高度な日本語が必要となるが、これを学ぶ施設がない。職業訓練の枠組みに外国人材が入るのであれば、業界の意見を聞きながらレベルの高い日本語を学べるような訓練を開講することができるのか。

○事務局

外国人材の語学訓練に関しては情報を持ち合わせていない。今後、確認等の上、それが可能ということであれば訓練計画に盛り込みながら積極的に取り入れていきたい。

●明石委員（全国産業人能力開発団体連合会会員 株式会社ニチイ学館）

受講者の確保については、民間の就職情報等のサイトに掲載から、申し込む者が若い人を中心に多い。年齢が高い者については、口コミがほとんどである。

外国人の受講者もいるが、外国人が集まるコミュニティなどで周知を行いつつ、受講者を確保している。

今年度委託訓練を3コース実施しているが、コロナの関係で受講生の職場見学、職業実習ができなくなってしまう、どのように実践的な訓練を実施していこうかと悩みながら運営している。

第3波が来ていると言われている中で、来年度、訓練を実施する中で、職場見学や職場実習が果たしてできるのか心配。実習を受けているうちに、実習先に就職したい、介護職で頑張りたいという気持ちが大きななっているものが、今年度はそれがなかったことから、就職に関し、ハードルが高くなっているような印象であった。コロナウイルスとの感染予防という観点からどのように訓練を実施していけばいいかを検討してもらいたい。

●渡部会長

コロナ離職について把握してもらい、これらの離職者に対し、どのような支援ができるか。介護人材の確保という点で接客業などから離職者が多く出ると思うが、接客が得意な者が介護に流れるのも悪いことではないのではないかと思いますので、そういう捉え方により、よりよい就職に導けるのか検討してもらいたい。